

Ⅱ 食物アレルギーについての理解（職員研修）

アレルギー疾患には、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎等、様々なものがあります。

アレルギー疾患に対する取組のポイントは次の3点です。

- 各疾患の特徴をよく知ること
 - 個々の児童生徒の症状等の特徴を把握すること
 - 症状が急速に変化するを理解し、日頃から緊急時の対応への準備を行っておくこと
- 「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（公益財団法人日本学校保健会）より

職員研修では、以下のような内容を行うことが必要です。

職員研修のポイント

1 事前の対応

（1）基本的な知識・理解

①食物アレルギーとは

定義・頻度・原因・症状・治療

②アナフィラキシーとは

定義・頻度・原因・症状・治療

アレルギー反応により、皮膚症状、消化器症状、呼吸器症状が、複数同時にかつ急激に出現した状態を**アナフィラキシー**と言います。



2 日常の対応（自校のマニュアルの確認）

（1）給食での配慮事項（調理場や保護者との連携）

（2）給食以外での配慮事項

（3）食育を通して、他の児童生徒への説明・協力

（4）幼稚園、保育所、小学校、中学校等、異なる学校段階での連携

（5）該当児童生徒に対する個別指導

（家庭と連携して食べて良いもの、いけないものを自覚させる）

3 緊急時の対応

（1）発症時の症状と対応の仕方（教職員の役割分担）

（2）緊急対応訓練（シミュレーション研修、消防機関や医療機関との連携）

（3）エピペン®の保持者と保管場所の確認

（4）エピペン®の使い方（実技研修）

（5）発症後の児童生徒の心のケア

アドレナリン自己注射薬（エピペン®）は、アナフィラキシーを起こす危険が高く、万一の場合に直ちに医療機関での治療を受けられない状況下にある者に対し、事前に医師が処方する自己注射薬です。

